

クラス別神格

クラス	神格(属性)
アーティフィサー	ウレオン(秩序にして中立)、オナター(中立にして善)、シャドウ(混沌にして悪)、トラベラー(混沌にして中立)
ウィザード	ウレオン(秩序にして中立)、ヴォルの血(秩序にして悪、死靈術士)、キーパー(中立にして悪)、オナター(中立にして善)、シャドウ(混沌にして悪)、トラベラー(混沌にして中立)、幻術士
クレリック	さまざま
サイオン	ウレオン(秩序にして中立)、オナター(中立にして善)、光の道(秩序にして中立)、シャドウ(混沌にして悪)
サイキック・ウォリアー	ウレオン(秩序にして中立)、ドル・アラー(秩序にして善)、ドル・ドーン(混沌にして善)、マックリー(中立にして悪)、光の道(秩序にして中立)
ソーサラー	ウレオン(秩序にして中立)、オナター(中立にして善)、シャドウ(混沌にして悪)
ソウルナイフ	オラドラ(中立にして善)、マックリー(中立にして悪)、光の道(秩序にして中立)、トラベラー(混沌にして中立)
ドライド	アラワイ(中立にして善)、バリノール(真なる中立)、ディヴァウラー(中立にして悪)、キーパー(中立にして悪)
バード	フェリー(中立にして悪)、オラドラ(中立にして善)、トラベラー(混沌にして中立)
バーバリアン	バリノール(真なる中立)、ディヴァウラー(中立にして悪)、ドル・ドーン(混沌にして善)
バラディン	ドル・アラー(秩序にして善)、シルヴァー・フレイム(秩序にして善)
ファイター	ドル・アラー(秩序にして善)、ドル・ドーン(混沌にして善)、マックリー(中立にして悪)、シルヴァー・フレイム(秩序にして善)
モンク	ドル・ドーン(混沌にして善)、マックリー(中立にして悪)
レンジャー	アラワイ(中立にして善)、バリノール(真なる中立)、ディヴァウラー(中立にして悪)、ドル・アラー(秩序にして善)、ドル・ドーン(混沌にして善)、キーパー(中立にして悪)、マックリー(中立にして悪)
ローグ	キーパー(中立にして悪)、コル・コラン(真なる中立)、マックリー(中立にして悪)、オラドラ(中立にして善)、トラベラー(混沌にして中立)
ワイルダー	フェリー(中立にして悪)、光の道(秩序にして中立)、マックリー(中立にして悪)、トラベラー(混沌にして中立)

宗教

エペロンでは、ほとんどの人が特定の神格を信じている集団に属しているわけではなく、そのかわりに特定の教会に属している。例えば“ソヴリン・ホスト”の信者たちは通常1つの神殿で共に9の神格を崇めているのだが、しかしコーヴェア内にある主要な街や都市には、それぞれ別個の神格を崇めている神殿も存在する。信者たちがひとつの神格を特に崇めているという場合もあり、通常それは彼らの目下の人生の状況や職業に最も密接に関連した分野に影響を及ぼす神格になる。しかしその場合でも、彼らは自分を集団としては“ソヴリン・ホスト”的忠誠なる信者であると考えている。ドル・アラーを崇拜しているバラディンとコル・コランのために祈りを捧げるローグは同じ宗教を持つ者なのである。彼らの間には(間違いなく属性や倫理觀などにおいて)多くの点で違いがあるが、彼らは宗教というものを、そういう違いを持つ自分たちを区別するものであるとは考えていない。

しかしながら、ドル・アラーに仕えているバラディンとシルヴァー・フレイムに仕えているバラディンは、違った教会、違った宗教を持つ人物である。彼らは自らの持つ理想と、秩序と善に対する信念により团结しており、共通の目的を達成するために広範囲で共に活動することもあるが、しかし彼らは延々と終わらない議論を繰り広げたり、時には神学的な問題や、世界の根元に関する根本的な信念に関して激しい口論となることが多い。

種族と宗教:エペロンにおける宗教は、一般的には、種族に依存したものにはなっていない。エルフとカラシュターだけが、他の種族の信者がほとんどないような宗教を持っている。他の種族は、全ての種族のクレリックや信者を受け入れてくれるといったように、多くの宗教を共有している。下記の「種族別神格」表は、特定の神格についての種族特有の教育が存在するかどうかをまとめたものであり、“クラス別神格”表は、キャラクター・クラス別で一般的に信じられている神格を挙げたものである。

種族別神格

種族	神格
エルフ	不死宮廷、もしくはクラスや属性による
カラシュター	光の道、もしくはクラスや属性による
シフター	ドライド教、バリノール、ボルドレイ、トラベラー、もしくはクラスや属性による
チェンジリング	トラベラー、もしくはクラスや属性による
ドワーフ	クラスや属性による
人間	クラスや属性による
ノーム	クラスや属性による
ハーフエルフ	クラスや属性による
ハーフオーク	クラスや属性による
ハーフリング	クラスや属性による

シルヴァー・フレイム

シルヴァー・フレイム(銀の炎)という名の秩序にして善の神格の正体は、ティラ・ミロンという名のかつて人間であった女性との間で深く関連を持つ、実体を持たない“力”である。ティラ自身は今や不死の者となっており、彼女(現在“シルヴァー・フレイムの御声”と呼ばれている)は、神聖なるシルヴァー・フレイムと、それと直接意思疎通を行えるまでの清浄さに達していない人間たちとの間の仲介役となっている。シルヴァー・フレイム教会は悪の超常的な勢力から一般人を守るために力を尽くしており、したがって、多くのバラディンがその目的ゆえ、この教会に惹かれていく。シルヴァー・フレイムは、破魔、善、秩序、そして守護の領域をもたらす。この神格が好む武器はロングボウであり、この教会において弓術は重要な慣習である。

シルヴァー・フレイムの
シンボル





ソヴリン・ホスト

ソヴリン・ホスト(至上の主人)は、コーヴェアの人々の大多数に崇拜されている、最も一般的な神格たちによって構成されている。ほとんどの人はソヴリン・ホストを、さまざまな状況で様々な神格を祈祷者にもたらしてくれるものとして、神殿全体として崇拜している。クレリックでさえ、しばしば特定の神格ではなくソヴリン・ホスト全体を信奉していることがある(P.34の「パンテオンに仕える」を参照)。全体としてみれば、この神殿は中立にして善であり、好む武器はロングソード——軍神であるドル・ドーンが使う武器——である。

アラワイ

農業の神

生産、植物、そして豊穣の神であるアラワイは、中立にして善である。彼女は多くのドルイドやレンジャーに信者を持ち、同様に農民、水夫、その他気候や農水業に特に関わりの深い者に多くの信者を持っている。彼女は普通ハーフエルフの女性として描かれるが、ハーフリングや人間だったり、時にはブロンズ・ドラゴンとして描かれることもある。バリノールとディヴァウラーの姉妹であり、(邪悪な兄弟によって犯された結果として生まれた) フュリーの母である彼女は、善、生命、植物、そして天気の領域を持つ。彼女が好む武器はモーニングスターである。



ソヴリン・ホストの
シンボル

ウレオン

秩序と知識の神

知識と魔法の神であるウレオンは、秩序にして中立である。秘術魔法の使い手、そして賢者や司書や書記にも信者を持つ彼は、古代文書においてはしばしばノームか人間のウィザードとして登場するが、時には堂々としたブルー・ドラゴンとして登場することもある。彼はオナターの兄弟であり、ボルドレイの夫で、シャドウとは不思議な関係にある。彼は知識、秩序、そして魔法の領域に通じており、彼が好む武器はクオータースタッフである。

オナター

匠と炉の神

中立にして善の、技術、工業、そして炎を司る神格オナターは、職人やアーティフィサー、鍛冶屋や精錬工、その他ものを作っている者全てから崇められている。ドワーフは特に彼を信奉している：彼は聖なる文書においては一般的にドワーフの鍛冶職人として現れるが、時にブ拉斯・ドラゴンである時もある。炎に特化したウィザードやサイオンもまた彼を信仰している。オラドラの夫でありコル・コランとキーパーの父親である彼は、技術、火、そして善の領域を司っており、彼が好む武器はウォーハンマーである。

オラドラ

饗宴と幸運の神

ギャンブラー、ローグ、バード、そして快楽主義者たちが、中立にして善の幸運と豊かさの神であるオラドラを信奉している。彼女はしばしば若いハーフリングか、または年老いた人間として描かれるが、時にブラック・ドラゴンとして描かれる時もある。オナターの妻でありコル・コランとキーパーの母である彼女は、饗宴、善、治癒、そして幸運の領域と関係を持つ。彼女が好む武器はシックルである。

コル・コラン

交易と富の神

商店主、貿易商、そして盗賊が、真なる中立の交易と金銭の神格であるコル・コランを崇めている——他にも、財産を持っている者や、さらなる財産を欲している者であれば同様に彼を崇めているかもしれない。彼は上質な衣服を着た、太った明るい人間やドワーフとして描かれる。いくつかの古代文書の中では彼は青白色の宝石のベッドの上に横たわったホワイト・ドラゴンとして登場する。オラドラとオナターの息子で、キーパーの双子の兄弟であると言われている彼は、魅惑、商業、そして旅の領域を司っている。彼が好む武器はメイスである。

ドル・アラー

名誉と犠牲の神

ドル・アラーは名誉ある戦闘、自己犠牲、そして陽光を司る秩序にして善の神格であり、仲裁人、注意深い計画者、そして戦略家として敬われている。彼女の信者にはパラディン、軍人、そして言葉で戦いを挑む外交官などがある。さらに、彼女は太陽の神として、この世界で最も暗い場所にまで光をもたらしている。彼女は一般的に神々しい光をバックにした人間かハーフエルフの騎士として描かれるが、時に雲上に座ったレッド・ドラゴンとして描かれることもある。ドル・ドーンとマックリーの姉妹と言われている彼女は、善、秩序、太陽、そして戦の領域を司っている。彼女が好む武器はハルバードである。

ドル・ドーン

武器の力の神

混沌にして善の、戦の神格であるドル・ドーンは、戦闘訓練と強靭な体による完璧な肉体的能力の象徴である。ほとんどの場合筋骨隆々の人間として彼は描かれるが、時にはドワーフやハーフオークの時もあり、さらにはシルヴァー・ドラゴンの時もある。彼はドル・アラーとマックリーの兄弟であると言われている。混沌、善、力、そして戦争の領域と関わりを持つ彼が好む武器は、ロングソードである。

バリノール

獣と狩りの神

真なる中立の、狩りと動物の生命を司る神であるバリノールは、狩人、ドルイド、バーバリアン、そしてレンジャーを信者に持つ。それゆえ彼は自然の守護者でもある一方で、自然から生きる糧をいかにそれを傷つけずに手に入れるかという模範でもある。彼は通常たくましい人間として、そして時に粗野な、しかし善良なハーフオークとして描かれるが、堂々としたグリーン・ドラゴンとして描かれることもある。彼はアラワイとディヴァウラーの兄弟である。風、動物、そして地の領域を司っており、好む武器は

バトルアックスである。

ボルドレイ

共同体と家庭の神

秩序にして善の神格であるボルドレイは、共同体を司る神格であり、村や家庭の守り手として、また結婚を祝福するために、また政府の公約を確証するためのものとして、崇められている。古代文書においては普通さまざまな種族のコモナーとして描かれるが、時に巣の中の卵を抱いているカッパー・ドラゴンとして描かれることもある。彼女はウレオンの妻である。司っている領域は、共同体、善、秩序、そして守護である。彼女が好む武器はスピアである。

暗黒六帝

ある意味において、暗黒六帝はソヴリン・ホスト神殿の一部であると考えることもできる。しかしながら、より正確に言えば、これらの神格たちはその悪事ゆえに神殿から追放された者たちなのである。暗黒六帝は、犯罪者、追放者、悪漢、そして同様に様々なモンスターを信者に持つ。神話に関する文書では、彼らはことある事に(それぞれ違う理由で)ソヴリン・ホストに反対して策動している。そして、彼らの邪悪な手下たちも同様に、ソヴリン・ホストの信者に対して様々な策動をしているのである。全体としてみれば、この神殿は中立にして悪であり、好む武器はカマである。

キーパー

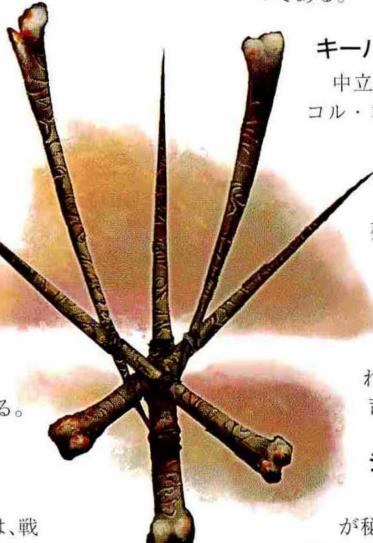
中立にして悪の、死と腐敗の神であるキーパーは、コル・コランの双子の兄弟である。コル・コランが物質的な富の獲得の象徴であるのに対し、キーパーは死者の魂に対する強欲、渴望を象徴している。彼は暗闇の中に潜伏し、“死の領域”ドルラーに向かっていく気まぐれな魂をひたらくとしているのである。彼は酷く痩せた、もしくは酷く太った人間か、リッチもしくはゲールとして描かれるが、時にスケルタル・ドラゴンとして描かれることもある。死、腐敗、そして悪の領域を司り、彼が好む武器はサイズである。

シャドウ

シャドウは文字通りウレオンの影であり、彼が秘術に熟達するための代償としてその生を受けた者である。混沌にして悪のシャドウは、暗黒魔法と自然の頽廃にその力を注いでいる。多くの悪のワイザードやソーサラーはシャドウを崇拜しており、ドロームにいる多くのモンスターも同様にシャドウを信じている。彼は普通(モンスターの)シャドウとして描かれるが、時には(特にドロームでは)シャドウ・ドラゴンとして描かれることもある。彼は混沌、悪、魔法、そして影の領域を司り、彼が好む武器はクオータースタッフである。

ディヴァウラー

アラワイとバリノールの兄弟であるディヴァウラーは、中立にして悪である。物語によれば、彼は姉妹であるアラワイを犯し、その結果フェリーの父親となった。深海の支配者、そして渦巻と暗礁の神である彼は、自然が持つ全ての破壊的な力を象徴している。サファグンは彼を信奉しているが、水夫たちは彼を恐れ、その怒りをなだめようとする。彼は海藻でできた髪と鬚を生やした人間かマーフォーク、またはサファグン、巨大な鯨、もしくはドラゴン・タートルの姿で描かれる。彼が司る領域は破壊、悪、水、



ディヴァウラーの
シンボル

そして天気である。彼が好む武器はトライデントである。

トラベラー

暗黒六帝の中で最も謎に包まれた存在であるトラベラーは混沌にして中立であり、一見この神殿の他の神格と全く関係がないように見える。完璧な変身生物であるトラベラーは、千の姿をもってこの地を歩き回ったと言われている。狡猾と欺瞞の主である彼は、巧妙で注意深い計画の象徴である。場所によっては、トラベラーは“贈り手”という名で呼ばれているが、警告として、「トラベラーの贈り物に注意しろ」ということわざもある。ドッペルゲンガー、ライカンスロープ、そして多くのチェンジリングやシフターに崇拜されている彼は、技術、混沌、旅、そして欺きの領域を司っている。彼が好む武器はシミターである。

フュリー

ディヴァウラーが姉妹のアラワイを犯した結果として生まれたフュリーは、中立にして悪の、狂気を駆り立てる感情の神である。人生を激情に食い尽くされたような人々に信奉されている彼女は、たいていハーフエルフとして描かれるが、時にドラウや、蛇のようなカイバーのワーム（ドラゴン）として描かれることもある。悪、狂気、そして激情の領域と関わりを持ち、好む武器はレイピアである。

マックリー

中立にして悪の、不忠の神であるマックリーは、自分の兄弟であるドル・アラーとドル・ドーンを裏切り、その後罰せられてソヴリン・ホストから追放されることになった。有能な戦士である彼は、邪悪な戦士、ロード、モンク、そしてアサシンを信者に持つ。

マックリーを
信仰するモンク



彼は体の皮を剥ぎ、敵の皮膚で作った外套を身にまとっているよう、ぞっとする外見の戦士として描かれるが、時にハーフフィーンドのレッド・ドラゴンとして描かれることもある。彼は破壊、悪、欺き、そして戦の領域を司り、カマを武器として選んでいる。

ヴォルの血

ヴォルの血は、死とアンデッドに魅惑された者を信者として持つ。中でも最も献身的な者は、“死の女王”ヴォルと名乗っている古代のリッチを崇めている。ヴォルの血が生まれたのは遠い昔であり、コーヴェアで人間社会が生まれた創世記から、エアナルのエルフの王国、そして秘密の大陸であるゼンドリックにさえ浸透している。ヴォルとその手下たちは不死こそが神力を得るための道であると考えており、不死宮廷が正のエネルギーをその源としているのとは反対に、負のエネルギーを彼らは用いている。彼らは比喩的な意味でも、そして文字通りの意味でもその“血”によって、そしてその伝統によってこの宗教に惹きつけられており、いくつかの邪悪な目的を達成するためにこの血筋をうまく利用しようとしている。ヴォル自身は、アンデッドの作成に関する秘密を解き明かした、強力な死靈術士である。ヴォルの血のクレリックは秩序にして悪である。彼らは死、悪、秩序、そして死靈術士の領域に通じている。この教団が好む武器はダガーである。

ヴォルの血の
シンボル



地下竜教団

地下竜教団は、地下の領域が持つ力を崇めている様々な狂信者集団によって構成されている。これらの集団の中には“下たるドラゴン”カイバーを世界の深淵から呼び出そうとしている者たちもいるが、一方で地下から招来的したデーモンたちと契約を結んでいる集団もある。地下深くにある失われた洞窟にあると言われている“約束の地”たる楽園を求めて、自らをそれにふさわしい者とするために、生け贋の血によってその体を清めているような者たちもいる。これらの狂信者集団には、カイバーの持つ禁忌の力に対する崇敬という点以上に共通点はあまり無いが、彼ら

地下竜教団のシンボル



一般的には中立にして悪であり、全ての者は地下竜、地、悪、そして狂気の中から領域を選ぶ。彼らが好む武器はヘヴィ・ピックである。

光の道

アダールのカラシューターたちはどの神格にも仕えていないが、彼らはイルヤン、もしくは“偉大なる光”と呼ぶ、正のエネルギーの普遍的な力を崇敬している。この力は秩序にして中立である。光の道の信奉者のはほとんどはサイオンとサイキック・ウォリアーであり、彼らは瞑想とこの“光”との対話により自らの肉体と精神を完璧の域にまで高めようとしており、暗黒の勢力——特に、リードラにいるインスパイアドのドリーミング・ダーク——との戦いに備えている。いくらかのクレリックはイルヤンから神仰魔法の源を見つけており、領域を秩序、瞑想、そして守護から選んでいる。彼らが好む武器は素手攻撃である。



光の道のシンボル

不死宮廷

エアレナルのエルフたちは彼らの先祖である古の死者を具現化した神格として崇めており、デスレスのカウンシラーに助言を求める、実際に彼らに助けてもらえるよう懇願する。アンデッドのクリーチャーと違い、不死宮廷のデスレスのエルフたちは正のエネルギーによって自立行動能力を獲得しており、中立にして善の属性を持つ極めて強力な者たちである。不死宮廷と関連のある領域は不死、善、そして守護である。不死宮廷が好む武器はシミターである。



不死宮廷のシンボル

エアレナルの死の街

